



## あなんまちマルシェ 2020 マルシェ de エール

コロナ禍により、地方の経済も厳しい状況が続いています。そんな中、商店主は新しい商いの創出を学び、来場者は地元の魅力を再認識するきっかけづくりのため、11月3日、8日、15日にJR阿南駅前芝生広場周辺にて「あなんまちマルシェ2020」が開催されました。

雑貨、飲食、特産品、占い、マッサージ、ワークシoppなど、本イベントに参加した店舗数は約50店。天気に恵まれた3日間の来場者数は計1万人以上に上り、久しぶりに街に賑わいが戻りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国商店街組合のガイドラインを参考に、野外出店や3日に分けた開催、分散した会場など、例年とは異なる安全な対人距離が図られた実施形式でした。また、出店者・来場者は、マスク着用を必須とし、アルコール消毒の励行も行われ、気持ちよく買い物ができるよう配慮されていました。



会話をしみながら、商品を購入



季節感のある植物に心が浮き立つ



光高校生、生徒発案の“防災食”を販売



イベントとピクニック気分を同時に味わう

昨今、ネット販売の機会が増えています。会場では、お互いに会って話をしたり、家族や友人と店舗を回って実際に商品を手にとって感じたり、リアルを楽しむようが見られました。商品の売れ行きは上々のようで、屋前には完売した店舗もありました。

家族の休みがそろったので一緒に訪れた、という和瀬さんご家族(橘町)は、「昨年おしかったカレーパンやクレープを購入した。店舗の間隔が十分空いており(4メートル)、感染症対策がなされていて安心できる。子どもたちの修学旅行等、行事の中止が続いているので、とても良い気分転換になった」とイベントを満喫していました。

主催した「阿南まちゼミの会」会長の吉積晶子さんは、「店舗・お客さま、皆が安心して参加できるというイベントの新しい形を模索していきます。創意と工夫でコロナを乗り越えたい」とマルシェを継続していく決意を話されました。